

「指導と評価の一体化」のための学習評価（中学校特別活動 学級活動（1）のポイント）



「なすことによって学ぶ」を方法原理としている特別活動では、話し合いを通して全体で合意形成したことや自己で意思決定したことを実行に移すことが重要です。

学級活動には、学級における切実な議題で合意形成を図る学級活動（1）と教師が年間を通して計画的に決めた題材で意思決定を図る学級活動（2）（3）があります。

合意形成を図るための資質・能力（折り合いを付ける力）は学級活動（1）において育成されます。学級活動（1）で育成される資質・能力は、生徒会活動等で生かされるだけでなく、教科等横断的に発揮される汎用的な言語能力となります。



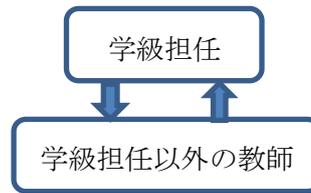
特別活動では、担任以外の教師を含む学校全体で評価体制を整えることが重要です。

学級活動において

主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの生徒の活動の様子から、積極的によさや可能性を見取る。

生徒会活動、学校行事において

※評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともにそれらが学級担任の手元に届き、活用されるようにする。



※個々の生徒の活動状況について、学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にする。

※必要に応じて**評価した結果を全教職員で共有し、指導に生かすことができるようにする。**

議題

第1学年「よりよい学級生活をつくろう」

内容のまとめ

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

1 学級活動（1）で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。
- 学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践できる。
- 生活の諸問題上の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。

2 評価規準

特別活動においては、学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を決めることとしています。従って、下に示した評価規準の観点はあくまで例であり、**観点は、学校ごとに定めます。**

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし <u>している。</u> 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して <u>実践している。</u>	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を <u>図ろうとする。</u>
文末は、「～している。」	文末は、「～している。」	文末は、「～しようとしている。（～しようとする。）」

3 指導と評価の計画

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の指導計画と評価の事例です。第1学年の学級開きにあたって、よりよい学級生活をつくることを議題とした話し合い活動や実践活動についての一連の活動計画例、1単位時間の指導計画例、ワークシートを参考とした評価の工夫例が示されています。また、教師の補助簿を活用して評価資料を累積する工夫例についても取り上げています。

時間	ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
学校行事	「学級開き」 ○ねらい ・自分の実態を知る。 ○活動		自分の実態と担任の思いを知り、学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。	
入学式後	・小学校の「キャリア・パスポート」から、今の自分ができていることとできていないことをまとめる。	<p>議題が、自分事となる切実な課題から設定できるように「キャリア・パスポート」等を活用することも有効です。</p>		
朝の会及び帰りの会	「自分の考える学級目標」 ○ねらい ・自分の実態と担任の思いから自分なりに学級目標を考える。 ○活動（個人） ・自分なりに学級目標案を考える。 ・『「よりよい学級生活をつくろう」シート』（以下ワークシート）を活用する	<p>指導計画を立てる際は、「事前」「本時」「事後」の時間枠で計画を立てます。</p> <p>本時で話し合いをする前の事前準備や話し合ってから合意形成したことを実践し、振り返る事後の活動が特に重要になります。</p>		
本時	「よりよい集団をつくろう」 ○ねらい ・学級目標を決める。 ○活動 ・個人で考えてきた学級目標をグループで出し合う。 ・グループの考えをまとめ、学級目標グループ案を決める。 ・学級全体で話し合い、学級目標を決める。 ・ワークシートを活用する。	互いの意見や可能性を生かし合うことの大切さを理解し、話し合い活動の仕方を身に付けている。	異なる意見から共通点を見いだし合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。	
朝の会及び帰りの会	「よりよい生活をつくろう」 ○ねらい ・学級目標から個人の一学期の目標を考える。 ○活動 ・学級目標を確認する。 ・自分の一学期の目標、取組を考える。			学級目標を踏まえて、個人の一学期の目標に取り組もうとしている。

※ これ以降、教科学習、学期の始めや終わり、学校行事や学級生活において、学級目標が意識されているかの視点で生徒を見取っていく。

4 「よりよい集団をつくろう」について

(1) 議題

- ・よりよい集団をつくろう

(2) 目指す生徒の姿

- ・互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。
- ・異なる意見から共通点を見いだし合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。

	生徒の活動	○目指す生徒の姿・指導上の留意点
導入	ワークシート「よりよい学級生活をつくろう」を活用して自分が宿題で考えてきた学級目標を確認する	
展開	<p>「よりよい学級生活をつくろう」を活用してグループで意見を出し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分が考えた学級目標を発表する。 ▶ 発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ▶ グループとしての学級目標案を考える。 ▶ 全員で学級目標を決める。 ▶ 各班で決めた学級目標案を発表する。 ▶ 「よりよい学級生活をつくろう」を活用して、発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ▶ 学級委員が調整役を果たしながら合意形成に向けて練り合う。 ▶ 折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。 <p>学級委員が学級活動を進めているため、本時の展開の中で教師が全生徒を観察により見取ることができる時間である。そこで、合意形成の視点での見取り表を作成し、生徒の評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 合意形成した学級目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">1年〇組の学級目標は～としていいですか。</div>	<p>付箋やワークシート等を用いて、意見を整理することが考えられます。</p> <p>○ 互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。【知識・技能】〈ワークシート〉</p> <p>○ 異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け（個人として）取り組んでいる。【思考・判断・表現】〈ワークシート、観察〉</p>
終末	<p>実践に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 担任からの合意形成した過程や全員で決めた学級目標に対する思いを聞く。 <p>学級目標を実現するために（予告）</p> <p>「次の活動は、学級目標を踏まえて個人の1学期の目標を決めてもらいます。」（担任）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自己評価表を切り離し、担任に提出する。 	<p>※ 生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。</p> <p>評価方法は、【生徒の自己評価を参考にした評価方法の工夫例】を参照してください。</p>

【生徒の自己評価を参考にした評価方法の工夫例（思考・判断・表現）】

○ ワークシートに基づき評価する際の教師の視点

生徒一人一人の話し合い活動の状況を1単位時間の授業ですべて見取ることは困難であり、主として前述のワークシートの記述からの見取りを行います。しかし、**記述の分析だけでは、十分ではない部分もあります。**それを補うため、**実際の生徒同士の話し合い活動の場での見取りを参考にすることも考えられます。**

ii ワークシートの見取りの例

<学級目標を決めるときに気付いたこと>

異なる意見への配慮を見取ることができます。

生徒A	<p>最後まで「時間を決めない」という考えにこだわっていたAさんの意見も、学級目標に入れられて良かった。話し合いで意見を言わなかったB子さんに聞いたら、「自分もそう思っていた」といってくれたので、安心した。これからお互いの可能性を生かし合って楽しい学級にしていくことが大切だと思う。</p> <p>協働して向上しようとしていることを見取ることができます。</p>
生徒B	<p>意見を言わなかった人にも聞いてみるべきだったと思う。時間内に決められて、よかった。</p> <p>異なる意見への配慮が見られるが、協働して向上しようとする姿を見取ることができません。</p>
生徒C	<p>自分の意見を堂々と言うことが大事。決まったことは守る。</p> <p>異なる意見への配慮、協働して向上しようとする姿を見取ることができません。</p>

生徒A 十分満足できる活動の状況（担任評価○）

生徒Bや生徒Cのような実態が見られた場合には、**物事を多面的に見ることの必要性や多様性を欠く協議の脆弱性に気付くような指導助言が求められます**。その際には、集団指導の場面でのガイダンスの機能を生かしたアプローチも考えられますが、個々の生徒のワークシートを活用していることから**個別指導の場面でのカウンセリング機能を生かしたアプローチが有効**と考えられます。

また、**少数意見を大事にすること、そういった風土が生み出す効果についても指導する機会と捉えましょう**。

【ワークシートの例】

「よりよい学級生活をつくろう」シート

() 組 () 番 氏名 ()

1. グループで話し合っって学級目標案を考えよう。

自分が考えた学級目標案 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【知識・技能】 自分の現状を踏まえた案となっているかを見取ります。</p> </div>	グループの他の人が考えた学級目標案
---	-------------------

メモ（意見を聞いて気になったこと、考えたこと）

【知識・技能】
互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けているかを見取ります。

学級目標案	
-------	--

2. 全員で学級目標を決めよう

他のグループの学級目標案	
--------------	--

メモ（意見を聞いて気になったこと、考えたこと）

学級目標	
------	--

<※学級目標を決める過程で他者の意見から気付いたこと>（生徒の自己評価）

【思考・判断・表現】
異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け（個人として）取り組んでいるかを見取ります。

【合意形成に向けた活動の見取り例】

主たる活動の場において「**どんな発言ができたか**」→「**意見をどう調整したか**」→「**意見に対してどう折り合いを付けたか**」の視点で、話し合い活動における生徒の発言を記録し、総括評価の時の担任評価の資料とします。次にその例を示します。

どんな発言ができたか	A：「尊重」という言葉は、絶対入れたい B：「尊重」って固くない？ C：「 互いのよさを生かす 」ではどうかな→○ D：「尊重」ってCさんが言うようなことだったと思う
意見をどう調整したか	E：でも「よさ」って限定的に聞こえるよね D：「互いの可能性」ではどうかな F：これまでの話し合いをまとめると「互いの可能性を生かす」ですよね。 それを一步深めて「互いの可能性を生かし合う」 ではどうでしょうか→○
どう合意形成したか	司会：「互いの可能性を生かし合う」に修正意見はありませんか A： みんなのおかげで私は納得できました →○

担任による評価は、見取りのその時だけではなく、生徒のワークシート等も含め、話し合い活動の流れの中で合意形成に寄与しているかを判断することも考えられます。その際は、**合意形成に至る個人の変容に注目して評価することも大切です。**

【生徒の自己評価を参考にして教師が総括評価を行う場合】

生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにするために、活動の結果だけでなく**活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒の良さを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。**そのため、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるような**ポートフォリオ的な教材などを活用して、自己評価や相互評価するなどの工夫が求められます。**なお、生徒の自己評価や相互評価は学習活動であり、それをそのまま学習評価とすることは適切ではありませんが、学習評価の参考資料として適切に活用することにより、生徒の学習意欲の向上につなげることができます。ここでは、**生徒の自己評価を参考にして、最終的には教師の見取りとして総括します。**

氏名	学期 事項	生徒の自己評価			総括評価
		知・技	思・判・表	主体的態度	
A	前期 アイ	○○	○	○○	○
	後期 ウ	○	○	○	
	学年	○	○	○	
B	前期 アイ	○○	○		
	後期 ウ	○		○	
	学年	○			

生徒の自己評価を参考に、教師が評価します。

最終的な総括評価は、教師の見取りとして評価します。